

[異常時通報連絡の公表文 (様式 1 - 1)]

伊方 2 号機排気筒ガスモニタの一時停止について

24. 1 .28

原子力安全対策推進監
(内線 2352)

[異常の区分]

国への法律に基づく報告対象事象	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 [評価レベル -]	
県の公表区分	A ・ <input checked="" type="checkbox"/> B ・ C	
外部への放射能の放出・漏えい	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 [漏えい量 -]	
異常の概要	発生日時	24年1月27日17時53分
	発生場所	1号・2号・3号・共用設備
		管理区域内 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 管理区域外
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 設備の故障、異常 <input type="checkbox"/> 地震、人身事故、その他	

[異常の内容]

1月27日(金)18時45分、四国電力(株)から、別紙のとおり、伊方発電所の異常に係る通報連絡がありました。その概要は、次のとおりです。

- 1 定期検査中の伊方2号機において、1月27日(金)17時53分頃、所内母線の一部の停電により補助建家排気筒ガスモニタによる監視が数分間停止した。
- 2 その後、電源を復旧し、補助建家排気筒ガスモニタによる監視を再開した。
- 3 現在、詳細を調査中である。
- 4 本事象によるプラントへの影響及び環境への放射能の影響はない。

[復旧状況等]

1月28日(土)1時40分、四国電力(株)から、復旧状況等について、次のとおり連絡がありました。

- 1 調査した結果、当該モニタの監視停止期間は6分間であり、その間において放射性希ガスの放出が行われていないこと、当該モニタの停止前後の指示値に変化がないこと及び野外モニタの指示値にも異常がなかったことから、環境への影響はない。
- 2 また、停電については、通常給電しているしゃ断器の点検のために、代わりに給電していた別のしゃ断器が開放したことによるものと推定している。
- 3 なお、停電に伴い停止した機器については、停止の影響はなく、1月28日(土)1時30分、正常に復旧していることを確認した。
- 4 今後、詳細を調査する。
- 5 本事象によるプラントへの影響及び環境への放射能の影響はない。

県としては、原子力センターの職員を伊方発電所に派遣し、復旧状況等を確認しました。

(伊方発電所及び周辺状況)

[事象発生時の状況]

原子炉の運転状況	1号機	運転中(出力 %)	・ <input checked="" type="checkbox"/> 停止中
	2号機	運転中(出力 %)	・ <input checked="" type="checkbox"/> 停止中
	3号機	運転中(出力 %)	・ <input checked="" type="checkbox"/> 停止中
発電所の排気筒・放水口モニタ値の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 通常値	・ <input type="checkbox"/> 異常値
周辺環境放射線の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 通常値	・ <input type="checkbox"/> 異常値

(2号機の排気筒モニタを除く。)

(参考)

1 国への法律に基づく報告対象事象

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律に基づき、国（経済産業省原子力安全・保安院等）に対し、一定レベル以上の事故・故障等を報告することが義務付けられている。

国への法律に基づく報告対象事象に該当すれば、国際原子力機関が定めた評価尺度に基づき、7から評価対象外までの9段階の評価レベルが示されるので、異常の程度を判断する目安となる。評価対象外以下のものについては、安全に関係しない事象とされている。

2 県の公表区分

区分	内 容
A	安全協定書第11条第2項第1号から第10号までに掲げる事態 (放射能の放出、原子炉の停止、出力抑制を伴う事故・故障、国への報告対象事象 等) 社会的影響が大きくなるおそれがあると認められる事態 (大きな地震の発生、救急車の出動要請、異常な音の発生 等) その他特に重要と認められる事態
B	管理区域内の設備の異常 発電所の運転・管理に関する重要な計器の機能低下、指示値の有意な変化 原子炉施設保安規定の運転上の制限が一時的に満足されないとき その他重要と認められる事態
C	区分A, B以外の事項

3 管理区域内・管理区域外

その場所に立ち入る人の被ばく管理等を適切に実施するため、一定レベル（3月間に1.3ミリシーベルト）を超える被ばくの可能性がある区域を法律で管理区域として定めている。原子炉格納容器内や核燃料、使用済燃料の貯蔵場所、放射能を含む一次冷却水の流れている系統の範囲、液体、気体、固体状の放射性廃棄物を貯蔵、処理廃棄する場所等が管理区域に該当する。

異常発生場所が管理区域の内か外かによって、異常の程度を判断する目安となる。

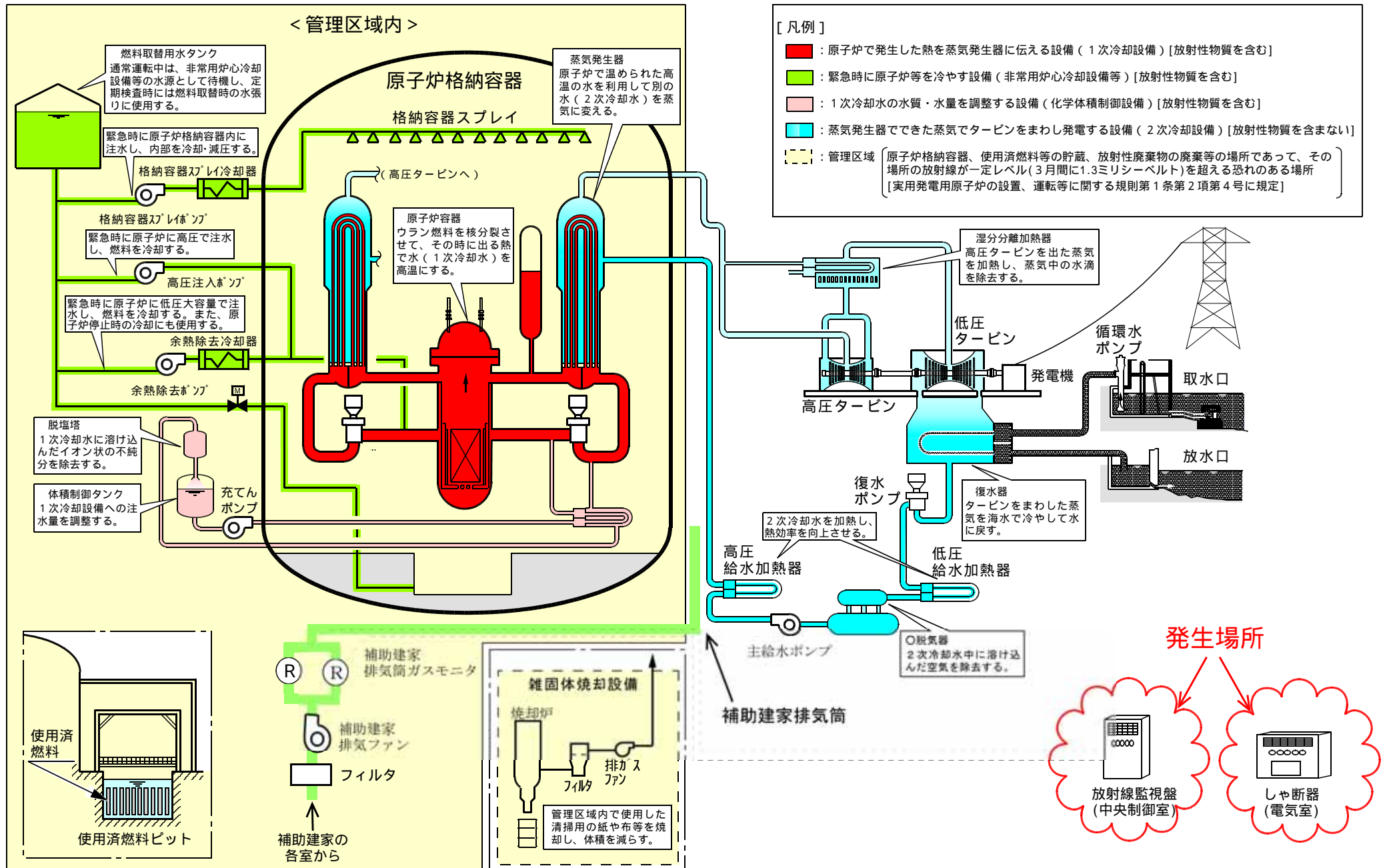
伊方発電所情報 (お知らせ)

発信年月日	平成24年 1月27日(金) 18時45分	
発信者	伊方発電所 原田	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・ 2号機(566MW) ・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 出力—MW(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 2号機第23回 定期検査中
発生状況 概要	設備トラブル ・人身事故・地震・その他	
	1. 発生日時： 1月27日17時53分頃 2. 場 所： <u>2号機 中央制御室</u> (管理区域外) 3. 状 況： 伊方発電所2号機は定期検査中のところ、本日17時53分頃 所内母線の一部の停電により補助建家排気筒ガスモニタによる監視が数分間停止しました。 その後、電源を復旧し、補助建家排気筒ガスモニタによる監視を再開しています。 詳細については、現在調査中です。 なお、本事象によるプラントへの影響および環境への影響はありません。	
運転状況	1号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中 2号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中 3号機：通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中	
備 考		

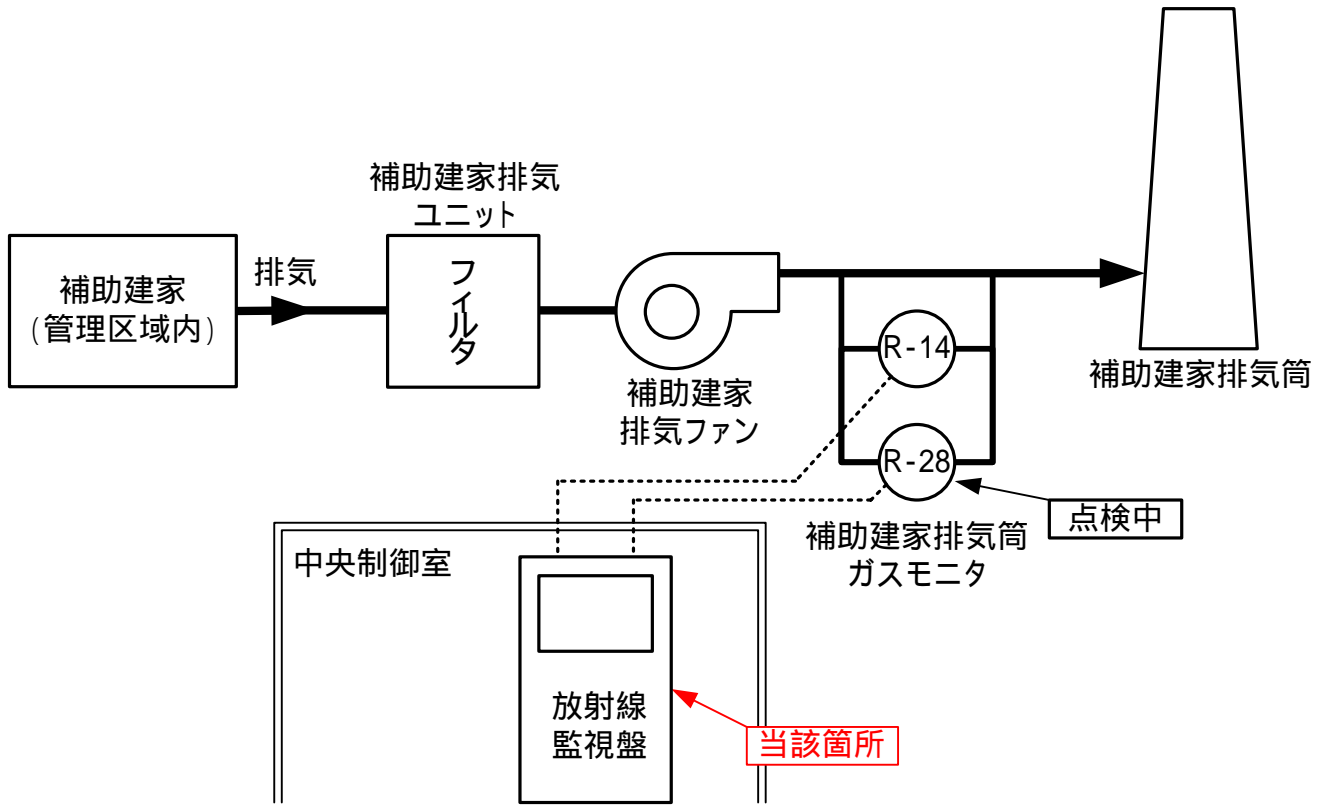
伊方発電所情報 (お知らせ、第2報)

発信年月日	平成24年 1月28日(土) 1時40分	
発信者	伊方発電所 原田	
当該機	号機 (定格出力)	1号機(566MW)・ 2号機(566MW) ・3号機(890MW)
	発生時 状況	1. 出力—MW(通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中) 2. 2号機第23回 定期検査中
発生状況 概要	設備トラブル ・人身事故・地震・その他	
	<p>1. 発生日時: 1月27日17時53分頃</p> <p>2. 場 所: <u>2号機 中央制御室、電気室 (管理区域外)</u></p> <p>3. 状 況:</p> <p>伊方発電所2号機は定期検査中のところ、1月27日17時53分頃 所内母線の一部の停電により補助建家排気筒ガスモニタによる監視が数分間停止しました。</p> <p>その後、電源を復旧し、補助建家排気筒ガスモニタによる監視を再開しています。</p> <p>詳細については、現在調査中です。 [第1報にてお知らせ済み]</p> <p>調査した結果、当該モニタの監視停止期間は6分間であり、その間において放射性希ガスの放出が行われていないこと、当該モニタの停止前後の指示値に変化がないこと、および、野外モニタの指示値にも異常がなかったことから、環境への影響はありません。</p> <p>また、停電については、通常給電しているしゃ断器の点検のために、代わりに給電していた別のしゃ断器が開放したことによるものと推定しています。</p> <p>なお、停電に伴い停止した機器については、停止の影響はなく、本日1時30分、正常に復旧していることを確認しました。</p> <p>今後、詳細調査を行います。</p> <p>本事象によるプラントへの影響および環境への放射能の影響はありません。</p>	
運転状況	1号機: 通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中 2号機: 通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中 3号機: 通常運転中・調整運転中・出力上昇中・出力降下中・ 定検中	
備 考		

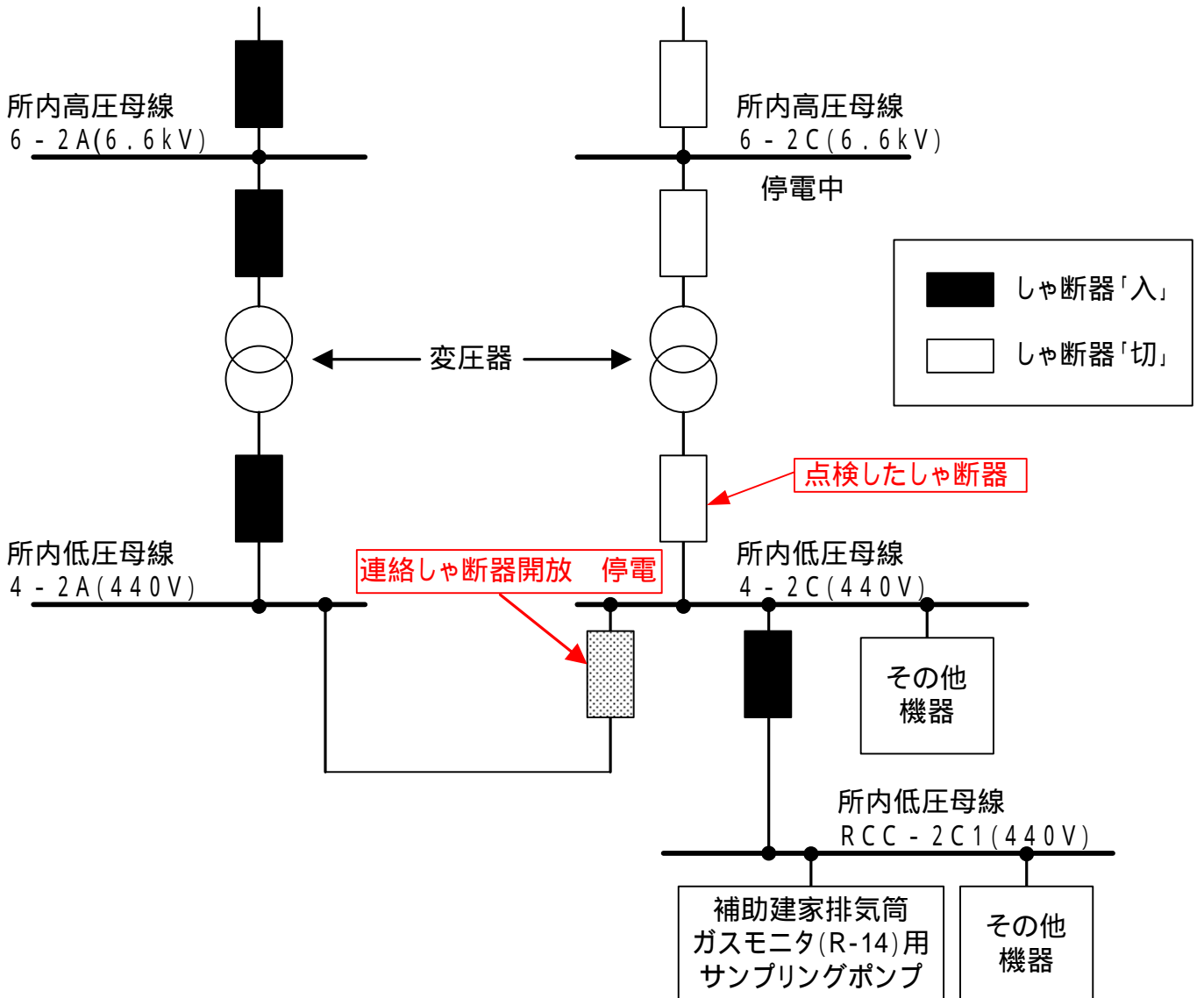
伊方発電所 基本系統図



伊方発電所2号機 補助建家排気筒ガスモニタ系統概略図



伊方発電所2号機 所内電源系統概略図





補助建家排気モ二夕
記録計

電源系統



用語の解説

排気筒ガスモニタ

排気筒から放出される空気中の放射性ガス濃度を連続測定している放射線ガスモニタ。

しゃ断器

平常時に電路を投入・しゃ断するとともに、短絡・過電流・地絡時には、保護継電器からの信号により電路をしゃ断する装置。

周辺環境放射線調査結果

(県環境放射線テレメータ装置により確認)

平成24年1月27日(金)

(単位：ナノグレイ/時)

測定局	時刻	測定値(シンチレーション検出器)					平常の変動幅の最大値	
		17:30	17:40	17:50	18:00	18:10	降雨時	降雨時以外
愛媛県	モニタリングステーション(九町越)	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	4.6	1.9
	九町モニタリングポスト	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	4.8	2.5
	湊浦モニタリングポスト	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	3.7	1.6
	伊方越 モニタリングポスト	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9	4.6	2.2
	川永田 モニタリングポスト	2.3	2.4	2.3	2.3	2.3	5.1	2.7
	豊之浦 モニタリングポスト	1.2	1.2	1.2	1.3	1.2	4.3	1.4
	加周モニタリングポスト	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	5.4	3.0
	大成モニタリングポスト	2.2	2.1	2.2	2.1	2.1	3.6	2.2
四国電力(株)	モニタリングステーション	1.5	1.5	1.4	1.5	1.5	4.1	1.7
	モニタリングポストNo.1	1.4	1.5	1.5	1.4	1.4	4.4	1.6
	モニタリングポストNo.2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	4.5	1.6
	モニタリングポストNo.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.3	4.6	1.5
	モニタリングポストNo.4	1.5	1.5	1.4	1.3	1.4	4.4	1.6

降雨の状況：有・無

伊方発電所の排気筒モニタ等にも異常なかった。
(2号機の排気筒モニタを除く。)

(参考)

1 環境放射線の測定値は、降雨等の気象要因や自然条件の変化等により変動するので、原子力安全委員会の環境放射線モニタリング指針に基づき、測定値を「平常の変動幅」と比較して評価しています。

「平常の変動幅」は、過去2年間(平成18、19年度)の測定値を統計処理した幅(平均値±標準偏差の3倍)としており、一般に、測定値が「平常の変動幅」の最大値以下であれば、問題のない測定値と判断されます。

2 環境放射線は線量(グレイ)で表されますが、一般的に、これに0.8を乗じて、人の被ばくの程度を表す線量(ミリシーベルト)に換算しています。

例えば、線量率約20ナノグレイ/時の地点では、1年間に約0.14ミリシーベルト(ミリはナノの100万倍を表す)の自然放射線を受けることとなりますが、これは、胃のX線検診を1回受けた場合の4分の1程度の量です。

(放射線量の例)

